

文教厚生常任委員 各位

柏崎市子ども未来部保育課

柏崎市保育園整備基本方針の策定について
標記の件について、以下のとおり報告します。

1 背景

- (1) 予想を上回る少子化の進行
- (2) 各施設の老朽化の進行
- (3) 社会福祉法人による園運営体制の維持・確保

2 市の現状

(1) 少子化の状況

公立・私立の全園児数がこの4年間で約15%減少。

特に公立では、園児減少のスピードが高まっている。（各年度4月1日時点 単位：人・%）

施設名 年度	R4(2022) 年度	R5(2023) 年度	R6(2024) 年度	R7(2025) 年度	R7 - R4 年度	
公立保育園	769	713	660	573	▲196	▲25.5%
私立保育園	1,074	1,032	1,025	981	▲93	▲8.7%
認定こ・幼稚園	344	332	299	289	▲55	▲16.0%
小規模保育事業	7	10	11	12	5	71.4%
合計	2,194	2,087	1,995	1,855	▲339	▲15.5%

(2) 施設の老朽化

網掛の施設の経過年数が長い（令和7（2025）年4月1日時点）。

外壁、空調・消防等の各設備など、毎年7,000千円程度の経費が全体で必要となっている。

柏崎	大洲	西部	松波	荒浜	北鰐石	中通	高田	北条	鰐石	田尻
44年	33年	37年	9年	40年	12年	27年	28年	23年	4年	0年

(3) 公立保育園及び私立保育園等における市の財政負担割合

区分	施設整備費	施設運営経費
公立保育園	一般財源 100%	一般財源 100%
私立保育園等	国1/2、市1/4	国1/2、県1/4、市1/4

(4) 社会福祉法人の経営面・運営面安定化への寄与

(3)の財政負担面で見たとおり、私立保育園等の方が市の財政面の負担軽減につながる。

また、法人職員の雇用安定化にも資することができる。

(5) 公立保育園の役割・責任

各種の障害や発達面など支援を要する子どもが増える中、公立としてしっかりと対応していく体制維持は今後も必須となる。人員の最適化と育成を継続していく必要がある。

3 整備基本方針の策定に向けた考え方

少子化の進展により、ここ数年で保育環境が急激に変化することが見込まれる。

上記の「1背景」「2市の現状」を踏まえ、これまで以上のスピード感をもって公立保育園の集約を進めることで、市全体の幼児教育・保育の環境の確保及び向上に向け、施設の適正配置を進めていきたい。

4 統廃合に向けた今後の取組

(1) 現行の整備基本方針にも方向性が記載されており、今年度中から検討を進める園

園名	築年数	R7.4.1 園児数	今後の取組（方向性）
大洲保育園	33年	18人	園児が20人を下回ることが複数年にわたり見込まれている。また、園が老朽化していることから、統廃合の検討を進める。
荒浜保育園	40年	14人	
中通保育園	27年	16人	園児が20人を下回ることが複数年にわたり見込まれるため、統廃合の検討を進める。

(2) 園舎の老朽化により検討が必要となる園

園名	築年数	R7.4.1 園児数	今後の取組（方向性）
西部保育園	37年	35人	園児は20人を下回っていないが、園舎が老朽化していることから、統廃合の検討を進める。

(3) 今後の園児数の推移を見ながら検討を進める園

園名	築年数	R7.4.1 園児数	今後の取組（方向性）
北鰐石保育園	12年	48人	園児が20人を下回る状況が見込まれた時点から統廃合を検討する。

(4) 地理的な要件から小学校の再編状況を見ながら検討を進める園

園名	築年数	R7.4.1 園児数	今後の取組（方向性）
高田保育園	28年	51人	園児数の推移、地理的な要件を踏まえ、小学校の再編状況に併せて統廃合を検討する。
北条保育園	23年	30人	園児が20人を下回る状況が見込まれた時点から、小学校の再編状況に併せて統廃合を検討する。
鰐石保育園	4年	20人	小学校の再編状況及び地理的な要件を踏まえ、統廃合を含めた園のあり方を検討する。

(5) 基幹園として公立で存続させる園

園名	築年数	R7.4.1 園児数	今後の取組（方向性）
柏崎保育園	44年	85人	基幹園として公立で存続させる。 ※柏崎保育園（鉄骨造）は、築年数40年以上が経過し、園舎の老朽化が進行しているため、改築に向けて検討を進めます。
松波保育園	9年	88人	
田尻保育園	0年	164人	